

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	クレーディア茅ヶ崎	階数	地上9F
建設地	茅ヶ崎市新栄町5572-17他	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	120人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年9月 予定	評価の実施日	2013年5月14日
敷地面積	649.53 m ²	作成者	佐藤工業株式会社一級建築士事務所
建築面積	441.64 m ²	確認日	2013年5月24日
延床面積	2,880.28 m ²	確認者	佐藤工業株式会社一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.2 ★★★★★

環境品質 Q: 66, 環境負荷 L: 30

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値	100%
建築物の取組み	72%
上記+ 以外の	72%
上記+	72%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 1
LR3 敷地外環境: 1

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

音環境	2.9
温熱環境	4.2
光・視環境	3.6
空気質環境	4.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

機能性	3.9
耐用性	3.2
対応性	3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

生物環境	2.0
まちなみ	4.0
地域性	4.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

建物の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.8
効率的	N.A.

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

水資源	3.4
非再生材料の	3.3
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

地球温暖化	4.1
地域環境	3.0
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 かつては別荘地として親しまれてきた茅ヶ崎の歴史的背景をテーマに計画を行いました。自然調の素材や植栽を多様することで、駅直近という立地にありながらも自然のぬくもりを感じながらの生活が可能となります。商店街の入り口に位置するため、外観は商店街の街並みに調和するように色彩・照明計画等に配慮しました。また、断熱性能の向上や潜熱回収型給湯器の使用等、エネルギー環境にも配慮した計画としています。		その他 住戸内は居住者のライフスタイルにあわせて住まい方も変えられる長期対応型の住宅とするため、リビングと居室との間は、壁で仕切るのではなく、一体の部屋として使用できるように引戸等を採用しています。
Q1 室内環境 ・F 及びVOC放出量の少ない建材を使用します。 ・住宅性能評価省エネ対策等級4相当の高断熱住宅とし、省エネ基準に相当するエネルギー削減の対策を講じる。	Q2 サービス性能 ・バルブ類の操作や機器、配管の維持管理の必要な点検口を壁・天井に適宜設置。 ・鉄筋のかぶり厚さは住宅性能評価劣化対策等級3相当確保。コンクリート強度の複合的なバランスを考慮し、コンクリートの中性化対策を講じることで耐用年数の向上に努めます。 ・設備で使用する配管類も耐用年数の永い材料を選定します。 ・受水槽が無い直結増圧給水ですが、電気が途絶えても1階は直圧で給水できます。	Q3 室外環境(敷地内) ・外観は生活環境に馴染む茶系アースカラーの素材で展開しており、エメロード商店街との色調の調和を図っています。 ・道路沿いに積極的に自然調の素材を使用し植栽を積極的に配置をすることで、建物と道路との間に環境的・心理的な緩衝領域を形成しました。
LR1 エネルギー ・外壁断熱厚さを考慮し建物の熱負荷抑制に努めます。 ・潜熱回収型給湯器の採用で、高効率で地球にも優しい設計になっています。	LR2 資源・マテリアル ・節水コマ、節水器具を採用し水資源の保護に努めます。 ・グリーン購入法適合商品を使用しCO ₂ 排出量の削減に努めます。	LR3 敷地外環境 ・広告物照明はなく、光害対策ガイドラインのチェックリストによる項目を一部満たしています。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される